

# 南米の農業

高島義雄著

外務省移住局発行 B5判 119ページ

本会々員中には異出の研究者も随分多いが高島義雄先生ほど特異なというか、素晴らしい実用面の研究をしている方も稀であろう。先生は明石南高校の教諭としてまた明石支部の役員として活躍されていることは紹介の必要もないが、先生の大きい研究が「南米の農業」であると聞くと誰でも驚くことであろう。私もかつて、先生が南米移住者に南米の農業について講義をされていることは既に知っていた。先生は若い20代のころ渡伯されて実際に研究された。また昭和37年7月より135日間にわたって、さらにご研究のために南米各地を視察され、いろいろと研究を積まれた。その講義の内容の一部を印刷公布されたのが本書である。ご承知のとおり農業ほど広い分野の学問はない。動物、植物、地質、肥料、気象、その他あらゆることどもが関係していることはご承知のとおりである。いま、本書を読ませていただいて随分多くのことどもを知ることができた。会員の皆様へもぜひ一読をおすすめしたいと思ってペンをとった。ことに多くの挿入の写真は誠に得がたいものである。私も広大なコーヒ畑、グワラナーの果実のなっているところ、すくすく伸びたユーカリノキ、ロウヤシの樹、油桐畑、黄麻、クマールの樹、パナ松、マンジョカ、その他、多数のものがある。

続いて紹介したいのは重要な作物の詳しい記録である。面白く思われることを2、3あげてみよう。

## コーヒー (アカネ科)

種類はアラビカ、リベリカ、ロブスターの3種の由で、いずれも多くの品種があるという。最上等は輸出で、次は囚人と軍隊が飲んで一般民衆は最下等という。囚人のもてる国?のような気がして面白い。また砂糖を入れて飲むと体液が酸性になるから……という注意がしてある。心したいことである。

## カカオ (アオギリ科)

木本で20種もの種類がある由、1果実中に20~40個の種子があり、白い果肉を醗酵させるとうまいカカオ酒(ビニオ・デ・カカオ)ができるという。この受精率は5%の由、原因は虫媒と他花受粉とがある。高価な理由も判るような気がする。

ココア、チョコレートの菓子にするとところは子葉中の養分を利用したものという。

## グワラナー (ムクロジ科)

天下の霊草と思っていたら、何と高さ10mの半蔓性の低木という。半蔓性の枝は果実をつけると下垂して地面につき、人に採られることを歓迎(?)するという礼儀のよさ。かつて不老長寿の霊薬と聞いていたが、成分はカフェイン、グワラナー・タンニン、テオブロミンなどの由、そのうちカフェインとテオブロミンが興奮剤、グワラナー・タンニンが麻痺作用があるという。同理で強壯剤、興奮剤として有効な理由がつかめる。成分を知ると一層よく効く。ところが、もっと面白いことには老人が用いると元気がでてよく眠れるし、若人が用いると強すぎて不眠になるといわれる。末尾に著者曰く「これは事実である」と結んでいる。老会員にぜひすすめて実証してほしい。

## マテ茶 (モチノキ科)

茶というからツバキ科かと思ったらモチノキ科という。緑茶に似た成分であるが、空腹時に飲むと食わなくても飢を覚えることがないという。戦争中の兵士に食わせる由、日本のデブさんにおすすめしたい。

その他、日本の茶も栽培がさかんという。茶の項には緑茶、紅茶の作り方、飲み方などが詳しい。

## ロウヤシ (ヤシ科)

蠟椰子で果実から蠟を採るものと想像していたら、なんと若葉からという。高さ17~18mの、まだ開かない葉からとる由、ご存じのことと思うが、この蠟はローソク、クレオン、靴クリーム、カーボン紙などに用いる。

なお、このヤシの茎は右巻きと左巻きに生長する由、日本(北半球)ばかりに左巻きが多いと聞いたが、どこにも異分子がある由、読みながらほほえましい。ついでに南半球では左巻きが正党派で右巻きが異分子というところある。正確なところは判らない。

## ゴム (バラゴム) (トウダイグサ科)

アマゾン特有で和硫法が発見されてから需要が激増し産業界に活気を呈し、中心地のマナオス市には大劇場が建てられ、ヨーロッパから一流の俳優が押しかけた。ところが1876年英人ウィッカムがゴム園の種子を盗みキウー植物園へ、さらにセイロン島、インド、マラヤ、インドネシアに植林した。これが気候とあったので、アマゾンのゴム園とその付近の都市が急激に没落した。

先年、私は琉球の砂糖畑に立って、戦後琉球の実習生がハワイのサトウキビ畑で茎を盗んで靴先ぎに入れて持って帰ったので琉球のサトウキビは1年後には現在栽培している砂糖の含有率の高い細葉種のものになってしまった由、このハワイの綻を破った大泥棒は琉球の一大英雄に祭られたという話を思い出してほほえましくなった。

以上、気のついたところどころを紹介いたしました。が、その他、多くの作物と家畜などの紹介、農業汎論、林業、農業移住者の食生活についてなど広範囲の記録が

ある。ぜひご一読をすすめたい。あわせて、移民の重要なとき、この好著を著わされた著者に敬意を表したい。

本冊子ご希望の方はハガキで神戸市生田区下山手通5丁目、県庁内海外移住事業団、兵庫県地方事務所宛にお申込み下さい。部数に制限がありますから至急お申込み下さいませよう願いたい。なお、生物学会員であることを明記して下さい。(室井緯)

## 新刊紹介

「学校博物館研究報告」

1号・2号 藤下英也著

阪急宝塚線が開通する以前から昆虫・植物の宝庫として知られた箕面は、現在も四季を通じて近郊観光地として発展している。

著者は大阪学芸大学卒業後、箕面二中に赴任し、爾来十年近く郷土教育及び調査研究に尽力されている。殊に地元の子弟に郷土の自然を十分理解させるため、郷土の動植物を調査すると共に学校博物館を設立し、まとめたものから研究報告を出版している。既に1号(箕面産へび類)、2号(箕面溜池のプランクトンI)が発刊され、近く3号(箕面産両生類)が出来る予定。上質のアート紙に多くのすばらしい写真とスケッチが載せられ、文献として価値も高いので、ここに御紹介したい。

実費 1・2号 各 150円、送料 30円切手封入  
申込先 箕面市西坊島 市立第二中学校内  
藤下英也宛  
紹介者 大阪学芸大学 水野寿彦

## と の みね 砥 ノ 峯 高 原 へ

峯山、砥ノ峯を含む播州高原は海拔1000mの大高原地帯で兵庫県指定自然公園になっており、特に砥ノ峯高原にはノハナショウブの大群落があり、花季には高原一帯を紫に染めるほど見事なものであります。また自然の教材が豊富で動植物の採集に四季を通じて楽しむことが出来ます。

### 交 通

姫路一寺前駅、または長谷まで(播但線)約1時間  
寺前一川上まで(バス)約40分(長谷より約20分)  
川上終点(登山口)より当ロッジまで徒歩約3分  
砥ノ峯高原ロッジの御案内

収容人員 約40名(人員、料金は御相談に応じます)  
設 備 浴室、碁、将棋、売店、ステレオ、テレビ、植物標本

### 照 会 先

兵庫県神崎郡大河内町川上  
砥ノ峯高原ロッジ(稲田植物研究所)

発行所 兵庫県生物学会

神戸市長田区西尻池町五丁目十三  
印刷所 印刷と紙器 KK たかた  
電話神戸@代表五六五六番

明石市大蔵谷  
県立明石高等学校  
会計 渋谷久雄  
(兵庫県生物学会)  
振替口座神戸一七五〇一番

同 古川博二  
神戸市長田区池田上町二八  
神戸常盤女子中・高等学校

編集兼 室井緯  
発行者 室井緯  
神戸市長田区寺池町一丁目  
県立兵庫高等学校

【非売品】

昭和四十年二月二十日 印刷  
昭和四十年二月二十日 発行